

ファッション
One Point
アドバイス

キーワードは
レトロフローラル

昨年同様、小花柄は引き続き人気のようで、特に、レトロ風フローラルは今夏春の定番中の定番になりそうです。

小花柄と言えば「リバティ (LIBERTY)」が有名ですね。LIBERTY社は、1875年にロンドンに設立され、1920年代には、繊細な花模様柄「リバティ・プリント」が大ブームになりました。当時から日本にもファンは多く、現在でもとくに手芸愛好者の間では根強い人気を誇っています。このリバティ柄がいわゆる“レトロ風”というのかもしれませんが。

また同じく、花柄で人気のブランドといえば、同じイギリスのブランド「ローラ・アシュレイ (Laura Ashley)」。日本には1980年代に登場しました。現在、50～60代の女性には、大好きなブランドという人も多いでしょう。ビビットな色の花柄の壁紙や小物、洋服は、これまでの日本にはなかったもので、『ローラ・アシュレイのワンピースと布バッグ一枚は欲しい』と思ったものです。

ただ、このローラ・アシュレイは、売り上げの激減で日本法人が今秋には撤退するとのこと。かつて一世を風靡したという意味では、ローラ・アシュレイの花柄もレトロ風と言えるのでしょうか。

そしてもう一つ。花柄で気になるブランドと言えば「ラルフ・ローレン (Ralph Lauren)」。こちらはローラ・アシュレイとは対極の、落ち着いた色味のオーセンティックな花柄。まさに古き良き時代を思わせるプリントですね。

特にレトロっぽいイメージの小花のワンピースやスカートからブラウスなどのトップスまで、小花柄のアイテムがたくさんショップに並びます。かなり薄手の透け感のあるものなど重ね着できるレイヤードタイプを

選ぶと、今年だけでなく、飽きずに長く着ることができます。なにせ“レトロ風”なのですから。



Clipbox Topics

新品にこだわらない若者 フリマアプリのメルカリ調べ

フリマアプリ「メルカリ」を運営するメルカリは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科の山本晶准教授監修のもと、全国のフリマアプリ利用者500名と非利用者500名の合計1000名を対象に、「フリマアプリ利用者」と非利用者の消費行動に関する意識調査を実施しました。それによると、商品を購入する際に、新品であることを重視している人は利用者・非利用者合わせても3割以下にとどまりました。

Q2. あなたは中古品を購入し、使用することに抵抗を感じますか。
以下の中から最も当てはまるものをお選びください。
n=1000 (単一回答)

	全く抵抗を感じない	あまり抵抗を感じない	やや抵抗を感じる	抵抗を感じる
20代	16.0%	37.5%	30.5%	16.0%
30代	7.5%	41.0%	33.5%	18.0%
40代	9.0%	42.0%	33.0%	16.0%
50代	10.5%	38.0%	33.5%	18.0%
60代	8.5%	36.0%	36.0%	19.5%

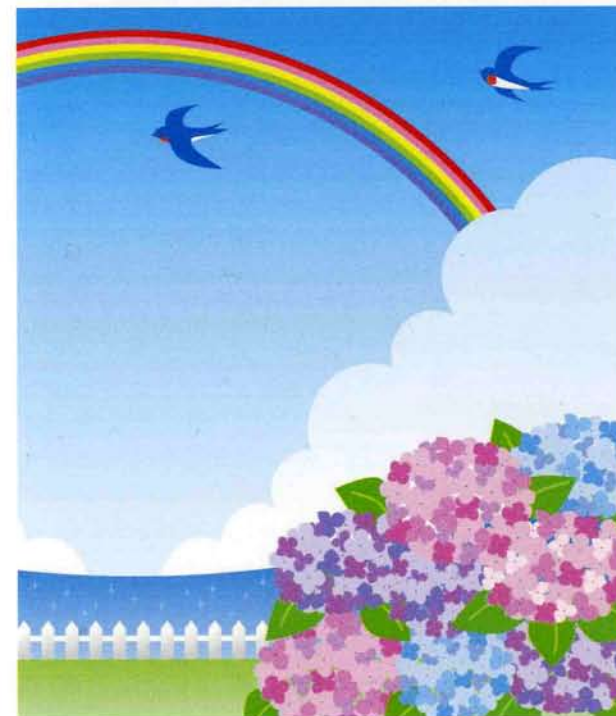
商品を購入する際に「新品であることが重要」と回答した人は、利用者、非利用者合わせて3割以下。特に、20代の半数以上が中古品を購入し使用することに「あまり抵抗を感じない」「全く抵抗を感じない」と回答しました。新品へのこだわりが低下しているのがうかがえます。

フリマアプリ利用者のうち半数以上が「新品を購入する前にフリマアプリで値段を調べるようになった」や、「売るときのことを考えてモノを大切に扱うようになった」と回答しています。

くらし応援ニューズレター

HomeDry News

ホームドライニュース No. 79



ファッション・ワンポイント: キーワードはレトロフローラル
クリップボックス・トピックス: 新品にこだわらない若者
衣類のケア講座: おしゃれ着は直射日光で色あせ
衣生活の知恵: 温かくて湿気があればカビはどこでも発生します

まごころクリーニング
ホームドライ ホームドライ
<http://homedry.or.tv/>



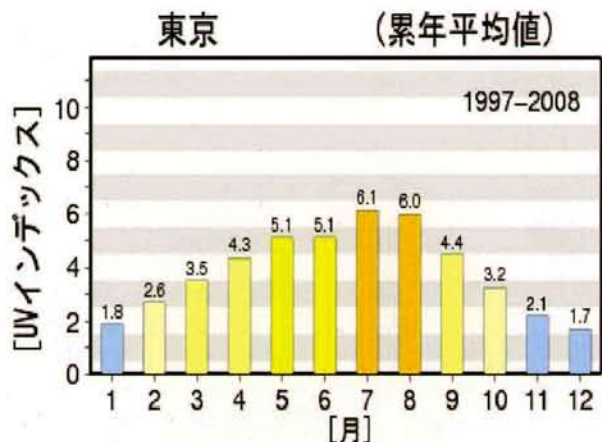
衣類のケア講座

おしゃれ着は直射日光で色あせ 衣類にも紫外線対策

● 6～9月までの4ヶ月間で年間の50%以上の紫外線が降り注ぎます

紫外線には、殺菌効果があることや肌荒れ、シミの原因になることが知られています。また、オゾン層破壊などで紫外線の照射量が増えると皮膚がんの恐れもあるということです。

気象庁の統計によると、6～9月までの4ヶ月間で年間の半分以上の量の紫外線が降り注ぐということです。UVケアが大切です。



日最大 UV インデックスの月別累年平均値グラフ(気象庁)

●衣類にとっても紫外線は大敵です

紫外線は、染料に対して強い影響を与えます。わかり易い例を挙げると、屋外に貼られたポスターが、数ヶ月もするとすっかり色あせてしまったり、顔写真なども誰だかわからなくなってしまいます。これは、衣類の色彩にしても同じで、特にシルクやナイロン、ウール繊維などの染色は、紫外線の影響で退色しやすいようです。



フードで隠れた部分だけ色が残っています

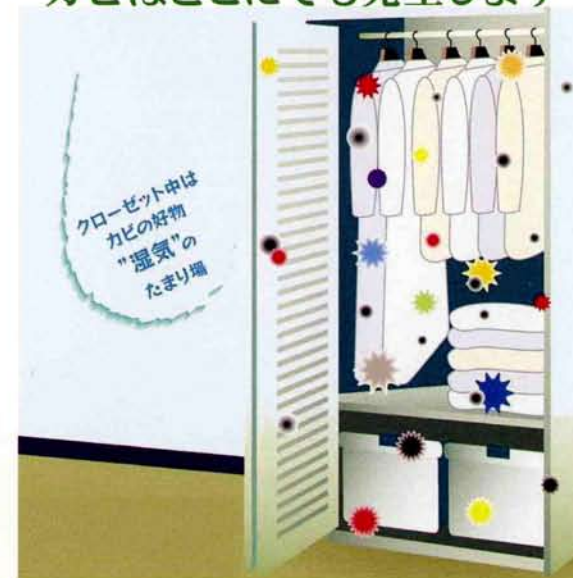
襟や生地裏表を比較してみると、どの程度色が変化しているかがわかります。

●洗濯での天日干しに工夫しましょう

下着類などは、多少変色しても紫外線の殺菌効果ということからは天日干しでもいいかもしれません。しかし、色柄物などのおしゃれ着は、陰干しをお勧めします。また、白い衣類の多くには、蛍光染料というものが使われていますが、これも紫外線の影響で黄ばみの原因になりますから、純白のブラウスなども陰干しをお勧めします。



温かくて湿気があれば カビはどこにでも発生します



雨が多く、湿り気の多いところには、部屋の中だけ除湿しても、クローゼットの中は意外にジメジメしていたりするものです。カビの菌は空気の中に浮かんでいます。湿気の多い日本では、特に配慮が必要です。

綿のコートやシャツなど、植物系の素材はカビの好物のようです。湿度70%、気温20度以上になると、がぜんカビの菌は元気になります。特にポリ袋を掛けたまま収納していると、湿気が抜けず繁殖しやすくなります。カビは約70,000種類あるとされています。衣類に発生すると繊維を養分にしますから、破れやすくなったり、脱色したり着色したりとさまざまな現象を起こします。